

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2025.4.7-13

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11:1 さて、民は【主】に対して、繰り返し激しく不平を言った。【主】はこれを聞いて怒りを燃やし、【主】の火が彼らに向かって燃え上がり、宿営の端をなめ尽くした。

11:2 すると民はモーセに向かってわめき叫んだ。それで、モーセが【主】に祈ると、その火は消えた。

11:3 その場所の名はタブエラと呼ばれた。

【主】の火が、彼らに向かって燃え上がったからである。

11:4 彼らのうちに混じって来ていた者たちは激しい欲望にかられ、イスラエルの子らは再び大声で泣いて、言った。「ああ、肉が食べたい。

11:5 エジプトで、ただで魚を食べていたことを思い出す。きゅうりも、すいか、にら、玉ねぎ、にんにくも。

11:6 だが今や、私たちの喉はからからだ。全く何もなく、ただ、このマナを見るだけだ。」

11:7 マナはコエンドロの種のように、一見、ペドラハのようであった。

11:8 民は歩き回ってそれを集め、ひき臼でひくか臼でつき、これを鍋で煮てパン菓子を作った。その味は、油で揚げた菓子のような味であった。

不平や不満はどこにでも見受けられます。問題はその動機や信仰の状態です。ここで主は「これを聞いて怒りを燃やし」ました。民は「激しく不平を言った」とありますが、このような言動は共同体に害を与えて前進を妨げるからです。ここに共同体の働を害するような不平だったのです。

「わめき叫んだ」とあります。信仰の判断はなかったでしょう。感情的になることで、煽られる人

がいるのです。

「彼らのうちに混じっていた者が」とあります。イスラエル人の苦難と神の救いのわざを良く知らない者が、自分の見方や感じ方で不満を感じてしまいました。ですから群れに加わるということは、その群れの歴史、何よりも主が導いてくださったみわざを知る必要があります。教会も同じです。

しかしながら「イスラエル人もまた」とありますから、彼らのうちにも不平があつて、それがくすぶっていたのでしょうか。主への従順を説くどころが同調してしまったのです。自分の思いを代弁してくれる人がいても、簡単には乗らずに主に祈って聞くべきです。

「エジプトで、ただで魚を食べていた」とあります。これは事実を曲げています。奴隷として搾取されていて、とても「ただで」食べれる状態ではありませんでした。不平を持つと人は自分の主張を正当化するために、事実を曲げる傾向にあるので注意が必要です。

「何もなく、ただ、このマナを見るだけだ。」とあります。何もないのではなく、マナがあるのです。必要が与えられていても、ないと思ひ込みます。またマナは神様からのすばらしい恵で、かつて主の驚くべきみわざによって与えられたものです。「おいしい」とも書いてあります。実際に与えられている恵を無視してしまっています。

このように私たちは不平の虜になってしまいやすい弱さを持っています。生い立ち、家庭、教会、生活、学校などで、不平に陥りやすい状況に気づいたなら、または不平に陥っているなら、主に聞いて、まずは自分の思いを吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 火曜

民数



11:9 夜、宿営に露が降りるとき、マナもそれと一緒に降りて来た。

11:10 モーセは、民がその家族ごとに、それぞれ自分の天幕の入り口で泣くのを聞いた。

【主】の怒りは激しく燃え上がった。このことは、モーセにとって辛いことであった。

11:11 それで、モーセは【主】に言った。「なぜ、あなたはしもべを苦しめられるのですか。なぜ、私はあなたのご好意を受けられないのですか。なぜ、この民全体の重荷を私に負わされるのですか。」

11:12 私がこのすべての民をはらんだのでしょうか。私が彼らを産んだのでしょうか。それなのになぜ、あなたは私に、『乳母が乳飲み子を抱きかかえるように、彼らをあなたの胸に抱き、わたしが彼らの父祖たちに誓った地に連れて行け』と言われるのですか。

11:13 どこから私は肉を得て、この民全体に与えられるのでしょうか。彼らは私に泣き叫び、『肉を与えて食べさせてくれ』と言うのです。

11:14 私一人で、この民全体を負うことはできません。私には重すぎます。

11:15 私をこのように扱われるのなら、お願いです、どうか私を殺してください。これ以上、私を悲惨な目にあわせないでください。」

11:16 【主】はモーセに言われた。「イスラエルの長老たちのうちから、民の長老で、あなたが民のつかさと認める者七十人をわたしのために集めよ。そして、彼らを会見の天幕に連れて来て、そこであなたのそばに立たせよ。」

11:17 わたしは降りて行って、そこであなた

と語り、あなたの上にある霊から一部を取って彼らの上に置く。それで彼らも民の重荷をあなたとともに負い、あなたがたった一人で負うことはなくなる。

11:18 あなたは民に言わなければならない。明日に備えて身を聖別しなさい。あなたがたは肉を食べられる。あなたがたが泣いて、【主】に対して『ああ、肉が食べたい。エジプトは良かった』と言ったからだ。

【主】が肉を下さる。あなたがたは肉を食べられるのだ。

11:19 あなたがたが食べるのは、ほんの一日や二日や五日や十日や二十日ではなく、

11:20 一か月もであって、ついには、あなたがたの鼻から出て来て、吐き気をもよおすほどになる。それは、あなたがたのうちにおられる【主】をないがしろにして、その御前で泣き、『いったい、なぜ、われわれはエジプトから出て来たのか』と言ったからだ。」

11:21 しかしモーセは言った。「私と一緒にいる民は、徒歩の男子だけで六十万人です。しかもあなたは、彼らに肉を与え、一か月の間食べさせる、と言われる。」

11:22 彼らのために羊の群れ、牛の群れが屠られても、それは彼らに十分でしょうか。彼らのために海の魚が全部集められても、彼らに十分でしょうか。」

11:23 【主】はモーセに答えられた。「この【主】の手が短いというのか。わたしのことが実現するかどうかは、今に分かる。」

民全体を導くことはできません。...殺してください。」とまで言っています。このような者の悩みを主は分ってくださいます。そして解決を与えてくださるのです。

主はモーセの否定的なことばに付き合うことをせずに、解決の約束を与えてくださいました。その解決はモーセが理解できなくても現実となりませう。

主に苦しい胸の内をさらけ出しつつも、主の解決に期待しましょう。主は必ず出口と希望を与えてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

人々をまとめて導くというのは大変な苦勞です。それは神の群れも一緒です。モーセでさえ「この



9日 水曜

民数

11:24 モーセは出て行って、【主】のことばを民に語った。そして民の長老たちのうちから七十人を集め、彼らを天幕の周りに立たせた。

11:25 すると【主】は雲の中であって降りて来て、モーセと語り、彼の上にある霊から一部を取って、その七十人の長老に与えられた。その霊が彼らの上にとどまると、彼らは預言した。しかし、重ねてそれをする事はなかった。

11:26 そのとき、二人の者が宿営に残っていた。一人の名はエルダデ、もう一人の名はメダデであった。彼らの上にも霊がとどまった。彼らは長老として登録された者たちだったが、天幕へは出て行かなかったのである。彼らは宿営の中で預言した。

11:27 それで、一人の若者が走って来て、モーセに告げた。「エルダデとメダデが宿営の中で預言しています。」

11:28 若いときからモーセの従者であったヌンの子ヨシュアは答えて言った。「わが主、モーセよ。彼らをやめさせてください。」

11:29 モーセは彼に言った。「あなたは私のためを思って、ねたみを起こしているのか。【主】の民がみな、預言者となり、【主】が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。」

11:30 それから、モーセとイスラエルの長老たちは、宿営に戻った。

11:31 さて、【主】のよき風が吹き、海からうずらを集めて来て、宿営の近くに落としたりした。それは宿営の周り、どちらの側にも約一日の道のりの範囲で、地面から約二キュ



ビトの高さになった。

11:32 民は、その日は終日終夜、次の日も終日出て行ってうずらを集めた。集めたのが最も少なかった者でも、十ホメルほど集めた。彼らはそれらを自分たちのために、宿営の周囲に広げておいた。

11:33 肉が彼らの歯の間であって、まだかみ終わらないうちに、【主】の怒りが民に向かって燃え上がり、【主】は非常に激しい疫病で民を打たれた。

11:34 その場所の名はキプロテ・ハ・タアワと呼ばれた。欲望にかられた民が、そこに埋められたからである。

11:35 キプロテ・ハ・タアワから、民はハツエロテに進んで行った。そしてハツエロテにとどまった。

民が持っていた、主とモーセへの不満は解決されました。多くのうずらが飛んで来て、飽きるほど食べることができたのです。しかしそれは疫病への前兆でした。もしかしたらうずらがその原因であったのかもしれませんが。主への不平不満からくる欲望が満たされたからといって、喜ぶことはできません。それは苦難の始まりかもしれないのです。

ここにある神様の怒りは、厳しすぎると感じるかも知れません。ただここでは、民の全部が打たれたではありませんでした。滅びに値するような者たちが打たれたと考えられます。この荒野で神に背き、エジプトに帰るなどと言って民を扇動することは、民全体の命に関わる罪だからです。これは新約時代も一緒です。救われる前の状態に戻るように、民を扇動して前進を妨げることを、主は容認することはないのです。

30節までの内容が、なぜここにあるのかはまだ明確ではありません。きっと神様のさばきという厳粛なできごとを民が正しく受け止めるために、主の預言が必要であり、またそれをモーセ1人で

負うのではなく、長老たちもモーセを理解できるように、一致する必要があったのかもしれませんが。モーセは自分の権威よりも、主にある一致を大切にしました。

このように共同体の解決のためには、話し合いの前に聖霊を求め、聖霊に満たされ導かれることが重要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 木曜

民数

12:1 そのとき、ミリアムとアロンは、モーセが妻としていたクシュ人の女のことで彼を非難した。モーセがクシュ人の女を妻としていたからである。

12:2 彼らは言った。「【主】はただモーセとだけ話されたのか。われわれとも話されたのではないか。」【主】はこれを聞かれた。

12:3 モーセという人は、地の上のだれにもまさって柔和であった。

12:4 【主】は突然、モーセとアロンとミリアムに、「あなたがた三人は会見の天幕のところへ出よ」と言われた。そこで彼ら三人は出て行った。

12:5 【主】は雲の柱の中にあって降りて来られ、天幕の入り口に立って、アロンとミリアムを呼ばれた。二人が出て行くと、

12:6 主は言われた。「聞け、わたしのことを。もし、あなたがたの間に預言者がいるなら、【主】であるわたしは、幻の中でその人にわたし自身を知らせ、夢の中でその人と語る。

12:7 だがわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者。

12:8 彼とは、わたしは口と口で語り、明らかに語って、謎では話さない。彼は【主】の姿を仰ぎ見ている。なぜあなたがたは、わたしのしもべ、モーセを恐れず、非難するのか。」

モーセは最も身近な者からの批判にさらされました。理由は「クシュ人の女を妻としていた」ということがはじめのようですが、その後、彼らの本音が出てきます。「【主】はただモーセとだけ話されたのか。われわれとも話されたのではないか。」と



いうのです。つまり動機はねたみなのです。近い者は協力者にもなれば、時にはこのように妨げにもなるものです。親しいからといって人間的な感覚で交わるのではなく、主の聖霊によって交わる必要があります。

人は批判のためには、どんなことでも問題視しなくなります。クシュ人は異邦人でしたが、主に従う者となっており、これは神様も認めるところでした。モーセだけではなく、自分たちも同じように主に語られるのだという主張に対しては、主御自信がモーセは特別であることを証しなさいました。

私たちも決して主の働き人をねたむことのないようにしましょう。主はそれぞれに尊い働きを与えておられるのですから、その使命を真心で全うするなら、指導者にまさる賞賛を与えてくださるのです。

また、時にはモーセのように批判されることもあるでしょうが、モーセのように「謙遜」にしましょう。自分ではなく、主が弁護してくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 金曜

民数

12:9 【主】の怒りが彼らに向かって燃え上がり、主は去って行かれた。

12:10 雲が天幕の上から離れ去ると、見よ、ミリアムは皮膚がツァラアトに冒され、雪のようになっていた。アロンがミリアムの方を振り向くと、見よ、彼女はツァラアトに冒されていた。

12:11 アロンはモーセに言った。「わが主よ。どうか、私たちが愚かにも陥ってしまった罪の罰を、私たちに負わせないでください。

12:12 どうか、彼女を、肉が半ば腐って母の胎から出て来る死人のようにならないでください。」

12:13 モーセは【主】に叫んだ。「神よ、どうか彼女を癒やしてください。」

12:14 しかし【主】はモーセに言われた。

「もし彼女の父が彼女の顔に唾したら、彼女は七日間、恥をかかされることにならないか。彼女を七日間、宿営の外に締め出しておかなければならない。その後で彼女は戻ることができる。」

12:15 それでミリアムは七日間、宿営の外に締め出された。民はミリアムが戻るまで旅立たなかった。

12:16 それから民はハツェロテを旅立ち、パランの荒野に宿営した。

12章1節には「ミリアムとアロンは…非難した。」とありますが、この動詞が女性的変化形となっていることから、彼女が首謀者であることがわかります。神様はその罪を示すために皮膚の病気を与えました。アロンは姉ミリアムのためにモーセに願ひ、モーセはいやしを祈りました。彼の祈りは「叫んで」とありますから、真剣で熱心なものでした。



モーセは自分を非難した者のために必死でとりなしたのです。ここに人を導く者の資質があります。このようになりたいものですし、そうでなければ主の使命は全うできないでしょう。聖霊による愛が必要です。

ミリアムにはモーセのようにになりたいという思いがあり、彼女のプライドが批判の動機でしたが、結果的にはプライドどころか、「恥」を身に受けることになりました。誰でも自分を高くしようとするなら、逆の結果を受けるのです。

ツァラアトは伝染性の病であるので隔離が必要でした。1人の反逆によって民全体の前進が妨げられましたが、それはミリアムを捨て置くことはできないからです。ここにもまた共同体の姿があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12日 土曜

民数

- 13:1 【主】はモーセに告げられた。
13:2 「人々を遣わして、わたしがイスラエルの子らに与えようとしているカナン之地を偵察させよ。父祖の部族ごとに一人ずつ、族長を遣わさなければならぬ。」
13:3 モーセは、【主】の命により、パランの荒野から彼らを遣わした。彼らはみな、イスラエルの子らのかしらであった。
13:4 彼らの名は次のとおりである。ルベン部族からはザクルの子シャムア。
13:5 シメオン部族からはホリの子シャファテ。
13:6 ユダ部族からはエフンネの子カレブ。
13:7 イッサカル部族からはヨセフの子イグアル。
13:8 エフライム部族からはヌンの子ホセア。
13:9 ベニヤミン部族からはラフの子バルティ。
13:10 ゼブルン部族からはソディの子ガディエル。
13:11 ヨセフ部族、すなわちマナセ部族からはスシの子ガディ。
13:12 ダン部族からはゲマリの子アンミエル。
13:13 アシェル部族からはミカエルの子セトル。
13:14 ナフタリ部族からはボフシの子ナフビ。
13:15 ガド部族からはマキの子ゲウエル。
13:16 以上が、モーセがその地の偵察のために遣わした者の名である。モーセはヌンの子ホセアをヨシユアと名づけた。
13:17 モーセは、カナン之地の偵察のために彼らを遣わして言った。「向こうに上って行ってネゲブに入り、山地に行き、
13:18 その地がどんなであるか、調べてきなさい。そこに住んでいる民が強いか弱いか、



- 少ないか多いか、
13:19 また彼らが住んでいる土地はどうか、それが良いか悪いか、彼らが住んでいる町々はどうか、それらは宿営か、それとも城壁の町か、
13:20 土地はどうか、それは肥えているか痩せているか、そこには木があるかないか。勇気を出して、その地の果物を取って来なさい。」その季節は初ぶどうの熟すころであった。
13:21 それで、彼らは上って行き、ツインの荒野からレボ・ハマテのレホブまで、その地を偵察した。
13:22 彼らは上って行ってネゲブに入り、ヘブロンまで行った。そこにはアナクの子孫であるアヒマンと、シェシャイと、タルマイがいた。ヘブロンはエジプトのツォアンより七年前に建てられていた。
13:23 彼らはエシュコルの谷まで来て、そこでぶどうが一房ついた枝を切り取り、二人で棒で担いだ。また、ざくろやいちじくの木からも切り取った。
13:24 その場所は、イスラエルの子らがそこで切り取ったぶどうの房にちなんで、エシュコルの谷と呼ばれた。

カナン之地に偵察に行ったこれらの人々は、後に不信仰に陥るのですが、ここに名前が銘記されています。主の前には榮譽も、また恥も明かにされることを肝に銘じましょう。

この偵察は民が願ってのことです(申命記)が、それを主は受け入れてくださいました。私たちが将来の希望とチャレンジを知ることは、信仰を働かせる機会になるからです。イスラエルの希望の地は、確かにすばらしいところで、ぶどうでさえも二人で担ぐほど大きな実が生る肥沃な地でした。

主が計画されていることはすばらしいのだと、主に信頼しましょう。信頼しきれない場合もあるかもしれませんが。その時は祈りや賛美の中で、その希望を見せていただきましょう。それくらいの課題を持って礼拝に望みましょう。主は必ず答えてくださいます。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



13:25 四十日の終わりに、彼らはその地の偵察から戻った。

13:26 彼らは、パランの荒野のカデシュにいるモーセとアロンおよびイスラエルの全会衆のところにやって来て、二人と全会衆に報告をし、その地の果物を見せた。

13:27 彼らはモーセに語った。「私たちは、あなたがお遣わしになった地に行きました。そこには確かに乳と蜜が流れています。そして、これがその果物です。

13:28 ただ、その地に住む民は力が強く、その町々は城壁があって非常に大きく、そのうえ、そこでアナクの子孫を見ました。

13:29 アマレク人がネゲブの地方に住んでいて、ヒッタイト人、エブス人、アモリ人が山地に、カナン人が海岸とヨルダンの川岸に住んでいます。」

13:30 そのとき、カレブがモーセの前で、民を静めて言った。「私たちはぜひとも上って行って、そこを占領しましょう。必ず打ち勝つことができます。」

13:31 しかし、彼と一緒に上って行った者たちは言った。「あの民のところには攻められない。あの民は私たちより強い。」

13:32 彼らは偵察して来た地について、イスラエルの子らに悪く言いふらして言った。

「私たちが行き巡って偵察した地は、そこに住む者を食い尽くす地で、そこで見た民はみな、背の高い者たちだ。

13:33 私たちは、そこでネフィリムを、ネフィリムの末裔アナク人を見た。私たちの目には自分たちがバッタのように見えたし、彼らの目にもそう見えただろう。」

信仰を持って勝利を確信する者と、不信仰から敗北を決め込む者の違いがここに表れています。ただし、何でも信じれば勝利できるのかというと、そうではありません。このカナン地は主が約束してくださったものです。そこに至るまでに多くの主の愛と力あるみわざを体験しているのです。そもそも出エジプトの出来事も、この約束の地に向かう第一歩でありました。

それでヨシュアとカレブは、自分たちの力よりも主の約束と力を信じたのです。何よりも勝利は主が戦ってくださるかどうにかかっています。ですからカナン地は勝ち取ったも同然なのです。

一方、占領に反対した人たちは、主の約束も主の力も信じないで、勝利は人間の力と思いこんでしまいました。そうすると、何もかもが恐怖につながります。実際よりも状況が難しいかのように、「悪くいふらして言った」のです。

まずは祈って、主からの約束をいただきましょう。そしてこれまで良くしてくださったことを思い起こし、忘れずに、主の慈しみを信じましょう。勝利が約束されているのに、それを得るためのチャレンジをしないのはもったいないことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

